

芝田小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

児童一人一人が、生き生きと活動する学級集団づくりをするとともに、基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。

- 自ら学び、互いに高め合う授業の実践
- ICTを適切に活用して学習効果を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 教諭 津田真里	委員 校長:西川栄展 教頭:内藤雅文 指導教諭・研修主任:森北育代 生徒指導主任:上田祥平 特別支援コーディネーター:林 裕子 養護教諭:寺嶋ひかり
---------------------------	--

校長

西川 栄展

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観、共通理解・共通実践後のアンケートや校内研修での話し合いにより、取組状況を把握する。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○大切なことを落とさず聞く習慣が身につけており、各教科において基本的な学習内容は概ね身に付いている。 ●学力の二極化が見られ、「理解に時間がかかる」「定着が難しい」「語彙が少ない」児童がおり、個人差が大きい。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。 ・学習のきまりや学習方法を習得し、進んで自分の考えを発表するとともに、辞典や資料、ICTから様々な情報を適切に収集し活用することができる。	・個に応じた指導を継続しながら、身に付けた基礎・基本的な知識技能を様々な学習場面でも活用できるように指導する。 ・学習規律や学習方法を発達段階に応じて指導するとともに、身につけた語彙力を使って、作文や俳句を作り、発表させることで学校全体のレベルアップを図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○小集団での話し合い活動においては、進んで表現しようとしたり筋道を立てて話したりする児童が増えてきた。 ●与えられた材料から目的に応じて思考判断したり、複数の考えから新しい考えを生み出したりすることが苦手である児童が多い。	・協働的な学習に積極的に取り組み、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 ・語彙を増やし、叙述にそって読み取ることで、自分の考えを適切な言葉で説明し、豊かに表現することができる。	・自力解決の時間を重視するとともに、練り上げの場面では、それぞれの意見や考え方を筋道を立てて発表させたり、文章に書かせたりして、協働的によりよい解決ができるようにする。 ・話し合い活動を全教育活動に位置づけ、対話的な活動の中で自分の考えを述べたり深めたりできるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習規律を守って、落ち着いた態度で学習に取り組むことができる。 ○ICTの活用により、興味をもって学習したり、時間を有効活用して自己の課題に意欲的に取り組んだりする児童が増えている。 ●難しいと感じることや苦手なことに根気強く取り組むことが難しい児童がいる。	・目標をもって学習に向かい、課題解決のために自分の考えをもったり、進んで意見を述べたりすることができる。 ・様々な種類の本に触れ読書の質を高めたり、自主学習に進んで取り組んだりして、自ら学ぶ楽しさを実感することができる。	・新しい課題や疑問に思うことをICT等を効果的に使いながら、興味関心を持って自ら調べさせたり、積極的に解決の方法を考えさせたりする。 ・学習過程において、学びを振り返る時間を設け、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を認識できるようにする。 ・積極的に本の貸し出しを行い、家庭と連携しながら家庭読書の習慣化を図る。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



